

(実践報告)

EタンDEM学習の実施報告

甲 斐 勝 二*
 欧 麗 賢**
 謝 平***

1. はじめに

外国語学習者にとって、学習言語能力の上達には言語の実践が欠かせないことであり、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションが一番の早道であると思われる。大学の外国語教育でも、交換留学などが重要視されてきたが、これに参加できる学生は経済的な面から限られていた。さらに、今は新型コロナウイルス感染防止のため学生間の国際交流は極端に制限されている。

タンDEM学習とは、母語の異なる二人がペアになり、言語や文化を学びあうという学習形態である(Brammerts 2001, 2005)。主に対面式タンDEM学習とインターネットを介したEタンDEM学習の二種類がある。タンDEM学習には「目標言語でのコミュニケーション能力を伸ばす、異文化に関する学びが起こる、学習者オートノミーの発達を促す、外国語学習の動機付けの維持に貢献する、外国語学習への肯定的態度を育てる」などの利点があると報告されている(青木・脇坂・欧, 2013; 脇坂, 2013)。国際交流が盛んに行われ、テクノロジーが格段に発達し普及していった社会背景のもとで、言語学習の可能性が教室外へと拡大していった(青木・田中2011, Benson & Reinders 2011, Nunan & Richards 2015)。インターネットの発達とともに広がっているタンDEM学習は、各種の制限を超えるため、言語教育及び国際交流において大きな期待ができるといえよう。

しかし、残念ながら日本の外国語教育においては、タンDEM学習はまだ普及されていない。国立情報学研究所の学術情報検索データベース・サービスCiNiiで「タンDEM学習」をキーワードとして入力して検索したところ、わずか12件であった(検索時間: 2021年9月25日)。

ほとんどの論文は日本語学習者についての内容であり、我々が従事する中国語学習者関連の論文は1本(青木など2017)しかなかった。また、中国国内でのタンDEM学習研究は、王钰・牧晨曦・张凌(2013)、张凌(2016)、胡永近(2016)、Tian & Wang(2010)などが挙げられる。しかし、それらは中国語対フランス語または英語のプロジェクトであり、実践の形式においては、Tian & Wang(2010)以外、正式の授業として取り入れるのがほとんどである。

現在、新型コロナウイルス感染防止政策などの影響で、実際の交流の大きな制限ができ、日本の中国語教育及び中国の日本語教育現場では、学習者が異文化実践を行う機会が非常に限られているという課題がある¹。この課題を少しでも解決しようと、本学科(福岡大学人文学部東アジア地域言語学科)と協定校である広州大学外国語学部日語学科では、2018年度の後期からリアルタイム式のEタンDEM学習を課外授業として導入してきた。本稿ではこの3年間の実践状況及び効果について報告し、コロナ状況下における大学の中国語教育に参考資料を提供する。

2. 一対一式の実施

冒頭でも述べたように、狭い意味では、タンDEM学習(Tandem Learning)は母語の異なる2人がペアになり、互いの得意な言語や文化を学びあうという学習形態のことを指す。大河内(2011)、脇坂(2013)などによれば、タンDEM学習は、参加者に異文化交流を楽しむ効果があるだけではなく、学習の動機を高める効果も期待できる。我々はこの三年間、ネットを介してリアルタイム式のタンDEM学習を主として実施した。

*福岡大学人文学部教授

**広州大学外国語学院講師

***福岡大学人文学部准教授

¹ 筆者の二人が属す東アジア地域言語学科では2019年夏に地の利を生かし40名の学生と共に上海财经大学で学生間の交流会を行った。3泊4日の短い期間だったが、参加した学生達には日本では見えない中国の現状に触れ大変好評だった。そこで毎年の行事に計画したが、2020年の新型コロナウイルスの蔓延により、計画の実施には至っていない。加えて大学間の交換留学の実施も延期が続きほぼ停止の状況である。これはどの大学でも同様であろう。

2018年9月から2021年9月までの三年間、全部で61組合計122名（福岡大学61名、広州大学61名）の学生がタンデム学習に参加した（表1参照）。

表1 新規参加者数

実施期間	男子学生	女子学生	合計
2018年度後期(第1期)	2組	11組	13組
2019年度前期(第2期)	4組	7組	11組
2019年度後期(第3期)	2組	3組	5組
2020年度前期(第4期)	1組	5組	6組
2020年度後期(第5期)	0	17組	17組
2021年度(第6期)	0	9組	9組
合計(2021年9月まで)			61組

表1で示されている通り、本学科と広州大学外国語学院の日本語学科に在籍の男子学生が少ないため、女子学生の参加者数のほうが多かった。また、毎期の新規参加者数はかなりの差がみられる。特に第3期と第4期の参加者数が少なかったが、第5期は多かった。2020年度前期までは学習期間を五ヶ月～六ヶ月と想定し、2年生

以上の学生を対象に毎年度に二回募集した。第1期と第2期の期間が終わっても各ペアは友達になって学習が継続しているため、改めての申請はなく、表面上は第3期と第4期の新規参加者数がへることになってしまっている。2020年度の後期は対象者を広げて一年生に対しても応募可能としたところ、応募者が多かったが、学生の対象言語の学習歴がまだ浅く、楽しみながらもストレスも感じたとのフィードバックが寄せられた。以上の先例を踏まえて、2021年度から2年生以上の学生を対象に一年に一回を募集することにした。

2.1 実施方法

1) 申請及び事前調査

募集期間に募集要項を配り、QRコードを読み取るか直接メールにて参加登録を行う。ペアリングのために学生の語学レベルなどを把握することが必要である。そのため、参加登録者に申込書を送り、記入してもらう。

申請書は以下のような13項目からなっている²。日本語バージョンは福岡大学学生用であり、同じ内容の中国語バージョンは広州大学学生用のものとなる。

【福岡大学学生用】

① 氏名	_____
② 性別	a. 女性 b. 男性
③ 所属	a. 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科 _____ 年生 b. その他 _____
④ 専攻	a. 中国コース b. 韓国コース
⑤ 母語	a. 日本語 b. その他 _____
⑥ 母語以外に得意な言語	_____
⑦ これまでどのくらいの期間、どこで中国語を学びましたか。	_____
⑧ 中国語はどのくらい話せますか。	_____
⑨ タンデム学習では、中国語について何を学習したいと思っていますか。（読む・書く・聞く・話す／日常会話・研究活動のための言葉など）	_____
⑩ 参加してみたいタンデム学習の形式はどれですか。	a. メールのタンデム学習 b. リアルタイム式のタンデム学習 c. メール／リアルタイム式両方 d. その他 _____
⑪ あなたの趣味や関心のあることを教えてください。	_____

² 本申請書は、欧麗賢が大阪大学文学部・文学研究科のタンデム学習プロジェクトの申請書を基にして改訂したものである（青木・脇坂・欧 2013）。

- ⑫ タンDEM学習参加中、原則として毎週1回、最低1時間はタンDEM学習のためにパートナーに会う時間を作れますか。
a. はい b. いいえ
- ⑬ その他、何か特別な希望があったら書いてください。

2) ペアリング

学生の申込書の内容に基づいてペアリングを行う。ペアリングする際には、主に以下のようなことを工夫している。

- ① 性別によるコミュニケーションのトラブルなどを回避するために、男子学生と女子学生をペアにしない。
- ② 参加者の言語レベルを考慮してペアリングを行う。中、上級以上のレベルを有している学生にはなるべく同じレベルの参加者をペアにする。初級レベルの学生については、上級レベルの学生と組むほうがコミュニケーションがスムーズにとれるため、なるべく初級レベルの学生と組まないようにする。
- ③ 参加目的や趣味なども参考にする。同じ趣味を持つ場合は、話題があってもっと学習の意欲を喚起すると考えられるため、なるべく趣味の似ている学生をペアにする。

3) 学習ガイダンス

コーディネーター（欧麗賢）により、ペアリングできた学生のガイダンスの日程を調整し、ペア毎に中国語か日本語かのオンラインガイダンスを行う。学習ガイダンスでは、一時間半のタンDEM学習の例として（図1）、タンDEM学習の原則、学習方法を説明した上で、外国語学習アドバイジングを利用し³、学生自分自身が自らタンDEM学習の学習計画を立てるようにサポートした。

図1 タンDEM学習の例



4) 学習サポート

学習期間中において、参加者の学習に対して以下のよ

うなサポートを実施する。

- ① 学習期間及びペアリングの再設定
参加者の事情により学習期間を調整したり、再ペアリングしたりする。
- ② 学習時間の調整
学習パートナーと調整し、都合の良い時間に変更することが可能であるが、学生がコーディネーターの先生にお願いして調整してもらうことも可能である。
- ③ 学習方法・内容の調整
コーディネーターの教員が定期的に学習の様子を尋ね、改善点をアドバイスする。
- ④ 学習ワークショップの開催
コーディネーター（欧麗賢）がタンDEM学習をよりよく利用するための学習ワークショップを不定期で開催した。

5) 学習効果の確認

学習期間が終わった時点で、自由記述式のアンケート調査を行い、学習の効果を確認する。アンケート調査は以下の5項目に設定している。

- ① タンDEM学習における学習目標の達成度
- ② タンDEM学習を通しての自分の変化
- ③ タンDEM学習に対する満足度およびその理由
- ④ タンDEM学習の利点および不足点
- ⑤ タンDEM学習への再参加の意欲およびその理由

2.2 フィードバック

学生から回収したアンケート調査に書かれた自由記述は、内容を「学習環境」、「収穫及び変化」、「満足度」の三つのカテゴリーに分けることができる。

2.2.1 学習環境について

本報告における学習環境はタンDEM学習を行う際の環境を指している。参加者から寄せられた感想は、主にパートナーと一緒に学習する環境、コーディネーターからの指導環境及びインターネット環境についてである。

文化の異なる学生同士の学習環境に対しては、肯定的な意見がほとんどである。特に空間的な隔たりを超え、

³ 青木（2013, 2015）によれば、外国語学習アドバイジングとは、学習者が自分で外国語学習の目標を立て学習を進めていける力を身につけるのを助けるための方法である。

安全でリアルな実践環境にあることに対して、以下のコメントのようによい反応を示している⁴。

- ・(前略) 我认为日汉语言交换的优势在于能够与以日语为母语的学习对象交流, 从以日语为母语的学习伙伴上可以获取自己想知道的关于日本的信息, 也可以了解一些日本人的想法。
- ・由于是学校发起的项目, 安全性较高。
- ・老师为我和对方牵桥搭线费了很多心力, 时不时会询问我的交流情况, 我遇到困难时给我支招。最大的帮助是当我觉得在交流中感到很累很有负担的时候, 老师给的建议和支持吧。
- ・学习是双向的, 互助性在交流中得到充分体现。
- ・(前略) 尽管我词汇量有限, 表达比较不日常, 她还是能很耐心地听完, 有时候很不好意思地要让她猜我想表达的意思, 所以跟她聊天比较没有负担。让我感到说错说得不好也没有关系, 意识到这点对在将来跟更多日本人交流的时候有很大的帮助。
- ・学习伙伴用简单易懂的日语为我讲解平时我上课时听完老师的讲解仍然不理解的一些课本知识, 遇到我难以用中文表达的内容也耐心地教我。
- ・中国・日本の学生双方にとって良い機会であるということ。語学の向上だけでなく、文化についてなど様々なことについて知ることができること。学生同士の橋渡しのような存在で、困った時なども相談できるので安心して取り組めること。
- ・実際に中国の方と会話する機会がどうしても少ないので、とてもいい機会になると思います。
- ・普段大学の授業で使っているテキストで、先生の説明で理解できなかった文法、慣用句の表現について、パートナーが日本語で分かりやすく説明してくれた。また、私が中国語でうまく表現できない内容を根気強くゆっくり話したり書いたりして教えてくれた。
- ・(このプロジェクトの利点は) 中国と日本で離れていても交流ができるとこだと思います。日本語を勉強している中国の方と、中国語を勉強している日本人だからこそ交流できる言葉や文化の違いなどがあると思いました。

一方で、インターネットによる制限と二人の都合があって、一部の学生からインターネットあるいは二人の都合が合わないことにより、学習がうまく続けられない感想もあった。

- ・这学期因为是网络交流, 学习的时候总是信号不好, 搞来搞去没什么兴致(后略)

- ・本学期的交流只进行了3次。因为时间上的问题, 学习伙伴提出了中断交流的想法。而且, 学习伙伴回微信的速度过慢, 导致双方的交流有点迟缓。

さらに、内気などのパートナーに対して自分の指導に対する相手からの意見を確認することができなかったという感想もある。

- ・在口语和写作方面的提升一般般, 因为对方有点害羞! 很少主动说话或者提问。其实很多时候变成了, 我问一句她答一句。写作上, 她也没有提过意见, 我也不知道自己写得如何。

2.2.2 収穫及び変化について

1) 自信の確立と学習意欲の向上

参加者からタンデム学習に参加してから、「間違っても大丈夫」という考えがあるようになり、外国人の前でも緊張せず大胆に話すことができるようになるなど、外国語を勉強するあるいは使う自信が生まれたというコメントが多かった。

- ・在口语方面, 一开始会有不太顺畅的地方, 因为日本人讲的日语不会像书本上一样死板, 他们的话语是会有很多变化的, 随着交流次数的增加, 自己也渐渐地不会那么紧张, 可以比较淡定地用日语跟日本人交流。
- ・我觉得自己变得不怕讲日语了。以前的自己总是不自信, 总是怕说错。但是现在每周都和学习伙伴聊天, 自己就慢慢变得挺敢讲日语了, 因为慢慢发现其实说错也不是一件多不好的事。
- ・最开始的时候, 其实对于开口说日语十分犹豫, 担心说错, 发音不准, 抑或表意不清。不过渐渐地, 我慢慢地能够更加自如地和交流对象对话。
- ・(前略) 此外, 我对于日语的学习方法也逐渐明朗起来, 对学好日语的自信心也强了很多。
- ・我的写作能力有了一定的提升, 对日语学习也有了自信。

また、タンデム学習に参加することによって、学習の意欲が高くなったという感想もあった。

- ・中国語の学習をする動機、機会は増えた。中国語の学習により一層やる気がでた。
- ・中国語の発音は面白いと改めて思った。
- ・中国への興味がさらに高まりました!

2) 異文化理解の深め

参加者からタンデム学習を通して、パートナーの国の

⁴ 中国語で書かれているコメントは広州大学の学生からであり、日本語のコメントは本学科の学生からである。以下同。

文化に対する理解を深めただけではなく、自分の国の文化も再認識することができたという感想も多かった。

- ・（前略）另一方面、我也破除了对日本人存在的神秘感，敢于和他们打交道。
- ・（前略）因为交流的话题很多都是涉及日本的文化、风俗等等，经过这学期的交流，自己对日本的一些风土人情也了解了不少。
- ・印象最深刻的是我给分享中国方言的时候，我上网找了很多资料，自己也知道了很多中国方言的日语表达。
- ・因为我的学习伙伴对日本的文化和社会习惯感兴趣，我也因此学到不少日本与中国的相同点和差异。
- ・（前略）双方都确实收获了一些未知的知识。
- ・中国人に対して少し怖いイメージがあったけど、ほんとに優しくてイメージが変わった。
- ・今まで中国発祥だと思っていた物が実は違ったなど新しい発見がたくさんありました。
- ・日本のことについて考えるようになった。
- ・日本の文化や社会習慣に興味を持ってくれるパートナーだったので、中国との違いや共通点について私も学ぶことができた。
- ・新しい気づきや新しい知識も増やすことができた。

3) 言語能力の向上

多くの参加者から、会話力、リスニング力及び作文力などの上達を実感したというコメントが寄せられている。

- ・把平时说敬语的习惯改了过来，回答别人时也从以前像回答上司般地—「はい」，学会了更加口语化的—「うん、そうだよ」之类，因为日常交流中真的很少会说敬语啊！！
- ・经过每周一次的小论文训练，现在没有以前那么惧怕小论文了。
- ・目標を達成できたわけではないけれども、話す力、聞く力を参加前よりは伸ばすことができたのではないかと思う。
- ・現地の人と直接会話することで教科書にはのってないことも学べる。
- ・中国の現地の方の、教科書ではまなべない「哈哈大笑」とかの使い方が分かるようになりました。
- ・中国語の音をそのまま中国語として聞き取り、理解するというようにしなくてはいけないと学び、そしてそれに気を付けて聞いてみると、少し聞き取れる、理解できるものが増えてように感じる。
- ・お互いの国の文化を知れることや、正しい発音に正してくれること。

また、以下のコメントのように、タンデム学習に参加してから、外国語に対する勉強方法を積極的に改善する

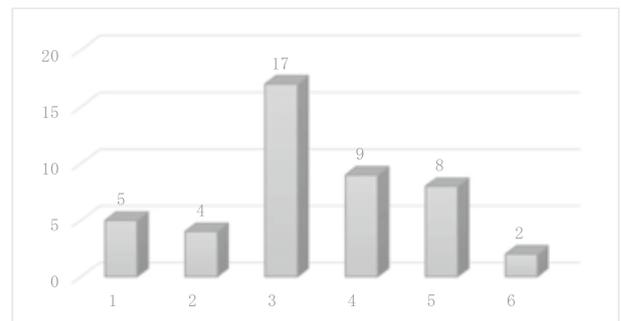
ようになる学生もいる。

- ・我的目标就是提高日语口语能力。基本上达成了，但是同时在交流的过程中遇到很多不会表达的地方，也让自己认识到自己的局限性，要进一步加强自身的日语能力，才能更好地达成效果。
- ・我养成了用日语记录的习惯。具体来说呢，因为我们交流需要话题，我个人又比较喜欢有趣一点的话题，所以我会专门去看一些日语新闻，看看发生了什么有趣的事情，再把这些写下来给对方听。
- ・学语言还是积累最重要这个想法更强烈了，所以现在有时间的话就会在沪江日语上背背单词。
- ・積極的に語彙を増やそうと思いました。勉強に対する姿勢が変わりました。

2.2.3 満足度について

満足度（満点10点）について設問に対して、これまで本学科の45名の学生から回答を得た。図2の示すように、7点以上を評価した参加者は35名であり、77%以上占めている。6点と5点を評価した参加者は10名で、23%近く占めている。

図2 満足度の調査結果



8点以上評価するコメントには、主に友達が出来て、異文化コミュニケーションの楽しさ、及び言語能力の向上などの要因が挙げられている。

- ・10点。とても満足しています。中国人のお友達が出来たことがとても嬉しいですし、今も継続して会話をしています！
- ・10点。とても満足しています。中国人のお友達が出来たことがとても嬉しいですし、今も継続して会話をしています！たくさんのことを学ぶことが出来ました
- ・10点。大学に行けないほど体調が悪い時でも、パートナーと交流するのが楽しみで頑張って外出できたほどだったから
- ・10点。中国語にたくさん触れることができたから。楽しく学べたから。日本語学習者と交流できたから
- ・10点。大切な友達に会えたから

- ・ 9点。回数を重ねるごとに会話を楽めるようになり、また、パートナーが褒めてくれるのが嬉しかったです。参加して良かったと思いました。ただ、次の話題に困ってしまうことも多かったです
- ・ 9点です。「对啊，对呀」の違いがずっと気になっていました。それもペアの方がどんなニュアンスなのかなど丁寧に説明してくれて、よく理解できました。理解できて嬉しかったです。
- ・ 8点。楽しく学習することができ、相手とチャットを通して顔を見て話せ、目で見て分かることも多かったから良かったです。
- ・ 8点。楽しく学習することができ、新しい気づきや新しい知識も増やすことができました。
- ・ 8点。まだまだ自分が未熟なのでタンデム学習は楽しかったですが、もっと中国語の理解を深めてから再挑戦したいなと思います。

また、8点以下を評価したコメントには主に自分の言語能力に対する不満の気持ちが目立つ。

- ・ 7点。自分の考えを瞬時に中国語で表現することができないことが多くて困ったからです。
- ・ 7点。友達ができて楽しかったけど、自分がもう少し中国語を話せたらもっと上達出来たらと思うからです。
- ・ 6点。自分の勉強不足のために思ったように話すことができないことが多く、相手に申し訳ないからです。
- ・ 6点。自分の中国語レベルがもっと高ければ、より良い学習になったと思う。
- ・ 6点。毎回お互いおしゃべり（友達としての会話）練習を行なったが、お互い意味は分かるものの、話の流れを重視したせいか、正しい発音や表現を深く教えあえなかったと感じるからです。

もちろん、パートナーとのコミュニケーションが通じなかったり、タイミングが合わなかったりするケースもある。

- ・ 8点。友達ができたので嬉しいが、時々話が通じない時もある。
- ・ 6点。お互いのタイミングがあわず、もっと話したかったと思いました。

3. グループ式の交流学習

新型コロナウイルス感染防止対策のために、各大学が導入したインターネット利用のテレビ会話システムは既にかかなり普及し、現在では参加者や居住地域にかかわら

ず容易に集合し、国際的な懇談会や研修会を開催できるようになっている。事情により毎週行なう一対一式のタンデム学習に参加できない学生もいる。このような学生にも年に一、二回でも異文化交流の経験を積ませ、学習意欲を高めさせようと、本学科と広州大学の日本語学科がグループのタンデム学習を行うことを試みた。

3.1 実施状況

実施日時：

2021年9月14日（火曜日）15：00～16：30

実施場所：

福岡大学Webexによる開催

参加者の内訳（35名）：

本学科学生13名、教員4名

広州大学日本語学科の学生14名、教員4名

形式：

ワークショップ

プログラム：

15：00 ワークショップ基調講演

15：30 1班4名から6名前後の班による検討会

ブレイクアウト機能による班分け

内容は各班内での自己紹介と各種の情報交換（興味や事情など）

16：00 集合と各班からの報告/質問

16：30 終了

最初に執筆者でもある欧麗賢により、本学科と広州大学学生とのタンデム学習について報告し、その後4グループに分かれ、各6名から7名のグループで話し合う。最後に一堂に集まり、グループ学習についてのまとめ及び感想を述べてもらった。初めての経験だったこともあって手順の悪さもあり、反省すべき点は残ったが、概ねの所、グループのタンデム学習は準備さえうまく行けばかなり順調に行えることが分かった。

3.2 フィードバック

交流会としては今後の実用性を確認できるものであったが、参加者に時間不足の感覚を残したのが今後の課題となった。また、参加者から可能ならグループ式の学習会を定期的に行う要望が寄せられた。

- ・ 私自身、勉強不足であり中国語で会話をすることができなかったため、事前に話す内容を考えておき、先生方に修正していただくと、もっと自信を持って意見を発することができるのかな、と感じました。また、同じ人ばかりが発言をしていたので、一人一人に発言をする機会を与えてほしいなと思いました。今回はこのような交流をする機会をいただき、ありがとうございました。後期からの中国語の

勉強のやる気にもつながりました。また機会があれば参加したいです。

- ・本日は広州大学との交流会に参加させていただきありがとうございました。なかなか国境を越えた交流ができない中、このような貴重な体験をすることができ、とてもうれしく思います。参加後の意見としては、交流の時間が短く感じました。また、交流の際にグループを決めておくのではなく、それぞれ異なる話題をテーマとしたブレイクアウトルームを作り、興味のある部屋に生徒自身が入るといった仕組みにした方が、共通の趣味を持った人と自分の好きなことについて話せるので交流が活発になるのではないかと思います。短い時間ではありましたが、とても楽しい時間を過ごすことができるとともに、中国語学習への意欲の向上にもつながりました。またこのような機会があればぜひ参加させていただけたらと思います。
- ・コロナ禍で留学などに行くのが難しい状況だけど、今回のようにオンラインで中国の学生と交流する機会があって良かったです。思っていたよりも時間が経つのが早かったけど、また交流会があれば参加したいと思いました。
- ・本日は広州大学交流会を開催していただき、ありがとうございました。私はネットの接続が悪く、再入室後違うグループに参加することになってしまいました。また、グループに参加するまでの待機時間があつたため、あまり、交流はできませんでした。もし、このような機会がまたあれば、次回はグループの人数を減らすか、交流時間を増やすなどを行い、もっとお互いの交流時間増やしてほしいと思います。
- ・本日は貴重な機会を設けていただき、誠にありがとうございました。なかなか顔を合わせた交流が難しい中、今まで勉強してきた中国語を、実験的な形でアウトプットする機会は、大変楽しく貴重だと感じました。また、先生方や広州大学の学生さんなどネイティブな中国語を、自分が意外と聞き取れていることが分かり、学習意欲がさらに湧きました！私はグループでの司会を任せて頂いたのですが、なかなか上手く進行できなかった点、他の学生さんに大変申し訳なかったと感じております…。我想要更努力学习汉语。
- ・時間に関しましては私も広州大学の学生さん同様に短く感じました…。しかし時間を長くすると参加できる学生さんも限られてくるかと思うので、例えばグループ分けの人数をもっと少なくしたら良いのではと感じました！グループ人数が多くて、全員が話せないということがあったので、4人くらいにすると濃く深い話が出るのではと思います。しかし今回のように大人数で楽しく話すのも、私には新鮮で

とても良かったと感じています！この度は貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。次の交流会が開催されたときには、ぜひ参加させていただきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

- ・昨日は、このような貴重な機会をいただきありがとうございました。タンデム学習とは違い、たくさんの方と交流することができ、とても楽しかったです。私も交流の時間がもう少し時間が長ければいいなと感じました。広州大学の皆さんの日本語のレベルの高さに驚き、私の中国語がまだまだだということを痛感しました。最後感想を言う際、自分の言いたいことが上手く中国語で言えず、自分の中国語のできなさがっかりしましたが、この悔しさがやる気になり変わり、今後さらに中国語の勉強を頑張ろうというモチベーションを上げるきっかけにもなりました。また、勉強の仕方の改善点や自分に何が足りていないのかも発見することができました。とても学びの多い一日になり、今回参加することができて良かったです。また機会があれば参加したいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

4. おわりに

先行研究でも指摘されているように、タンデム学習には「互恵性」及び「学習者オートノミー」のメリットがあり、学習者の勉強意欲及び言語能力の向上により役割を果たす可能性がある。また、オンラインによるEタンデム学習は、空間的な制限を超え、特にコロナ状況下での国際交流には実用性を十分に発揮することができると言える。おそらく、新型コロナウイルス感染の問題が終息しても、大学の授業にこういった勉強方法を取り入れることで、コミュニケーション系の外国語教育内容は実際の交流に近いものとなり、その効果も上がるはずである。だとすれば、この学習方法は大いに検討する価値がある。

しかしながら、解決すべき課題も残っている。例えば、学習のサポートではペア同士の語学レベルに差がある場合の解決法を考えなければならない。以下のコメントでも示されているように、テーマや学習時間、方法などの設定について、どのようにサポートすればよいのかも大きな課題の一つである。

- ・（前略）我感觉跟对方在刚开始可能缺少一些学习规则上的制定，所以学习过程一直比较松散，除了互相准备交流内容和提问之外，没有其它互相学习的途径，比如纠正、问对方建议更好的表达等等。
- ・（前略）如何引导对方更多地说中文，并且确保对方听懂了，实在是个难题。

- ・(前略) 毎回自分達でテーマを決めるのが意外と難しいので長続きしにくいと感じました。
- ・中国語を聞き取る際に、今までは一言一句日本語に置き換えて考えていたけれども、それでは追いつかないし、内容も頭に入ってこないということを実感した。だから、自分でテーマを探すのは大変だと感じ、最初からテーマが決まっていた受け身で良いオンライン会話のレッスンの方が自分に合ってるかなと思いました。

また、日本語学習者と中国語学習者の参加人数が不均衡な場合は、三人の小グループで行うことが可能か否かはまだ検証していない。学習期間が終わっても継続している学生がいることに対して、どのようにサポートするのか、その学習成果をどのように活かして新規参加者に還元できるのかについても検討すべき課題である。

さらに、異なる大学同士の学生間のタンデム学習を、その大学の教育課程に組み入れるとすれば、どのようにすればよいのか。学生同士の個人的な交流の手助けならいざ知らず、その大学の授業の中に取り入れるとなると、大学相互の規範の作成や学生参加の基準・単位認定の基準、場合によっては必要な予算措置も必要になってくる。大学によってはいささか難しい場合もあろう。

当面のところ、課外活動として継続しながら、以上の問題の解決を探ることになるだろうと考えている。

参考文献

- 青木直子 (2013), 『外国語学習アドバイジング』 Kindle eBooks
- 青木直子 (2021), 教えるのをやめる: 言語学習アドバイジングというもう一つの方法, 『小出記念日本語教育研究会論集』 25号
- 青木直子・中田賀之 (2011), 序章 学習者オートノミー: 初めての人のためのイントロダクション, 青木直子・中田賀之 (編) 『学習者オートノミー: 日本語教育と外国語教育のために』 (pp.1-22), ひつじ書房
- 青木直子・脇坂真彩子・欧麗賢 (2013), 『2012年度タンデム学習プロジェクト報告書』 大阪大学大学院文学研究科・文学部、国際交流センター
- 青木直子・榮苗苗・郭菲・劉姝・王静斎・丁愛美 (2017), 対面式タンデム学習における学び: 日本語学習者と日本語話者のやりとりにおけるLREを手がかりに, 『阪大日本語研究』 29号
- 大河内朋子 (2011), タンデムプロジェクトの実践報告—コース設計とその成果, 『大学教育研究 三重大学授業研究交流誌』 19号
- 小林浩明 (2016), タンデム学習の意義と可能性, 『北九

- 州市立大学国際論集』 14号
- 中島祥子・板倉ひろこ (2003), 日本語学習者と母語話者の異文化理解の形成: 電子メールプロジェクトワークを通して, 『異文化間教育』 17号
- 脇坂真彩子 (2013a), E タンデムにおいてドイツ人日本語学習者の動機を変化させた要因, 『阪大日本語研究』 25号
- 脇坂真彩子 (2013b), 『Eタンデムにおける動機付けのメカニズム: 日本語学習者とドイツ語学習者のケース・スタディ』, 大阪大学文学研究科博士学位論文
- 脇坂真彩子 (2016), 日本とドイツの大学生による E タンデム: インターネットを介した学習者同士の学びあい, 『ことばと文字』 6号
- Benson, P. & Reinders, H. (2011), *Beyond the language classroom*. Basingstoke: Palgrave macmillan.
- Brammerts, H. (2005), Autonomes sprachenlernen im tandem: Entwicklung eines konzepts. In H. Brammerts, & K. Kleppin (Eds.), *Selbstgesteuertes sprachenlernen im tandem; Ein handbuch 2. auflage* (pp.9-16), Tübingen: Stauffenburg
- Nunan, D. & Richards, J. C. (Eds.). (2015), *Language learning beyond the classroom*. New York: Routledge
- Tian, J. & Wang, Y (2010), Taking language learning outside the classroom: Learners' perspectives of eTandem learning via Skype. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 4 (3)
- 胡永近 (2016), 课堂配对学习中的语言取向、主题化与角色转换, 『外语教学』 第2期
- 王钰・牧晨曦・张凌 (2013), 网络语言交换在对外汉语教学中的实践, 『中文现代教学化学报』 第2期
- 张凌 (2016), Moodle平台上eTandem 课程的文化交互模式探究, 『黄冈师范学院学报』 第4期

謝辞:

本実践は九州大学留学生センターの脇坂真彩子准教授よりご指導とご助言を賜りました。また、執筆者の欧麗賢は、住友財団からアジア諸国における日本関連研究助成(課題番号: 178041, 期間: 2018年3月~2019年12月)を受けていました。心より感謝申し上げます。